

朝の礼拝

聖書 詩編 46 編 2-4 節（旧約聖書 863 頁）

神は我らの逃れ場、我らの力。
苦難の時の傍らの助け。
それゆえ私たちは恐れない
地が揺らぎ
山々が崩れ落ち、海の中に移るとも。
その水が騒ぎ、沸き返り
その高ぶる様に山々が震えるとも。

支え

「地が揺らぎ、山々が崩れ落ち、海の中に移るとも。その水が騒ぎ、沸き返り、その高ぶる様に山々が震えるとも」とあります。聖書の舞台は世界でも有数な地震地帯です。現在も 80 年から 100 年に一度は大地震が来ると予想されています。ですから当時の家や建造物は岩や石で造られていました。

詩人は地震や土砂崩れ、洪水に襲われても主が共にいるから恐れないと歌います。しかし私は 31 年前、神戸で断層に沿って家が崩壊し、垂直も水平もわからない被災地で立ちすくみました。そして避難所で最愛の方を亡くされた方の話を聞き、慰めの言葉もない重い沈黙の時を経験しました。

その時のことを思い出すと、とても「神は我らの逃れ場、我らの力。苦難の時の傍らの助け。それゆえ私たちは恐れない」とは言えません。ただ先にこの世を去った人の魂も、そして残された人の魂にも、癒えることのない痛みを共に負う支えが必要だということだけはわかります。

岩、あるいは柱、軸のような支えにすがりたい時が誰にもあります。もう会えない悲しみ、どれだけ時間が経っても癒されない痛み、しかし無情にも時の経過と共に忘却の彼方へといざなわれる現実があります。それでもなお永遠の交わりを信じさせてくれる支えが必要です。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、日の光も少しずつ長くなるのを感じます。しかしまだまだ寒の入り、三寒四温が繰り返されます。明日から再び冷え込みが厳しくなります。どうか心身を労り、大切に過ごせるようにお守りください。年度末となり英和生の学びは卒業、進級、進学と次の学びのステージがすでに始まっています。日々の授業と教科書を大切にし、自らなぜこれを学ぶのかと自問し、考え、批判し、探求させてください。そして学ぶ楽しさと喜びを支えとして、将来への夢を育ませてください。どうかいまだ愚かにも争いを続ける人々に悔い改めの心を与え、特に嘆き悲しむ人々の祈りを省み、共に支えとなり、ひと時でも早くあなたの平和に与らせてください。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン